

2026年度 JICA横浜 教師海外研修募集要項

応募締切
5/12 (火)
必着



撮影：2025年度教師海外研修（ペルー）同行者 現地日系学校にて

研修テーマ

誰一人取り残さない社会
～日系社会の現場から考える～

海外研修先

ペルー共和国

海外研修期間

2026年8月9日（日）～ 8月22日（土）

対象

神奈川県および山梨県内勤務の教員

募集人数

10名

参加費用

無料 ※現地での宿泊費用、食費などは個人負担となります。



主
後

催：独立行政法人国際協力機構 横浜センター（JICA横浜）
援：文部科学省、外務省、対象地域内の教育委員会等（申請予定）

教師海外研修とは

事前研修、海外での研修、事後研修、実践授業で構成される国際理解教育・開発教育実践のためのJICAの研修プログラムです。実際に開発途上国を訪問することで、その国の歴史、現状、人々の生活、日本との関係について理解を深め、教育現場等で、国際理解教育・開発教育を推進する人材となって活躍いただくことを目指しています。

JICA横浜2026年度教師海外研修について

(1) JICA横浜教師海外研修テーマ： 「誰一人取り残さない社会 ～日系社会の現場から考える～」

ペルーは地理的には遠いものの、日本とのつながりが深い国です。その架け橋のひとつが、約20万人にのぼる日系人の存在です。日系人はかつて日本から海外へ渡った人々とその子孫です。日系社会は歴史のなかで「異なるもの」との衝突や共生、困難や葛藤、そして協力と希望を経験してきました。本研修では、日系社会からの学びを通して、「誰一人取り残さない社会」を実現するための手がかりを探ります。

社会には、出自や言語、障がい、得意不得意、価値観やものの見方など、多様な違いと共通点が共存しています。学校や教室はその縮図と言えます。日系社会の経験に学び、違いと共通点、マジョリティとマイノリティ、自己形成や葛藤といった観点を通して、開発途上国のみならず学校という多様な社会の中で「誰一人取り残さない」を形にするための教材、発信の在り方、授業の手法を具体的に考えていきます。

(2) 学校内および地域での推進

本研修の学びをいかして学校内および地域において国際理解教育の推進をしていただくことをねらいとします。

所属校内での報告会・研修会や、地域での勉強会・部会などにおいて、積極的に本研修での学びを生かし国際理解教育・開発教育の推進を行い、次代を担う子どもたちの育成のすそ野を広げていただくことを期待しています。

事前 研修

派遣国の基礎知識、健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行います。



海外 研修

JICA海外協力隊活動現場、現地の学校視察、日系人との交流等を通じて、授業の素材となる情報/気づき/発見/疑問、写真や動画などを入手します。



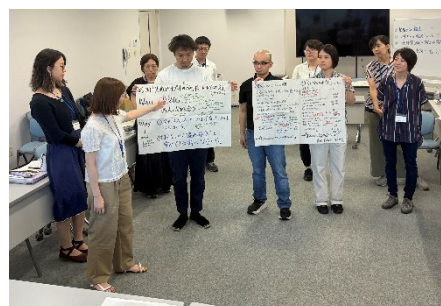
事後 研修

ペルーでの海外研修を振り返りつつ、体験や資料を基に、教材、発信方法・手法について考えて、全員で教材と授業案を作成します。



実践 授業

所属校にて、各自が数時間の実践授業を行います（うち1時間は全員で作成した教材を用いた授業）。また校内/地域での報告会など推進活動をしていただきます。





研修日程

注) 世界情勢の影響により、海外研修の日程は変更、場合によっては中止となる場合があります。

| 研修名 | 場所 | 日程 | 内容 |
|---------------------|------------|---------------------------|---|
| 国内事前研修① | JICA 横浜 | 2026年6月20日(土) | ・本研修概要・派遣国・視察先の説明 ・海外研修準備(渡航手続き、健康/安全管理、素材収集の方法) |
| 開発教育教員セミナー (基礎編) | JICA 横浜 | 2026年7月4日(土) | ・開発教育の基礎概念等 ・教材研究の方法 |
| 国内事前研修② | JICA 横浜 | 2026年7月18日(土) 19日(日) | ・開発教育のワークショップの体験 ・教材研究の方法 ・前回参加教員との交流 |
| 海外研修 | ペルー | 2026年8月9日(日) ～8月22日(土) | ・開発途上国の現場体験 ・教材研究のための素材収集 |
| 国内事後研修① | JICA 横浜 | 2026年8月29日(土) | ・研修先で得た素材の整理 |
| 国内事後研修② | JICA 横浜 | 2026年9月12日(土) | ・教材、発信方法等の検討 |
| 実践授業 | 所属先 | 2026年9月 ～2026年12月 | ・各所属先における授業実践等 |
| 開発教育教員セミナー (応用編) | JICA 横浜 | 2027年1月16日(土) 17日(日) | ※実践授業報告も行います。 ・開発教育のワークショップの体験 ・参考事例発表 |
| 最終報告 | ※ | 2027年2月～3月 | ・研修全体の学びの共有、報告 |



報告書の提出等

※各自で10分程度の動画を作成いただくことを想定しています。

帰国後は2週間以内に海外研修報告書(所定様式:A4・4頁程度)を提出していただきます。実践授業をJICA横浜のスタッフが参観させていただきますので、予めご承知ください。授業やその他の教育活動での実践を報告書(所定様式:A4・10頁以内)にまとめ、帰国後5ヶ月以内に提出していただきます。すべての事例をホームページに掲載し一般公開いたしますので、予めご了承願います。



参加費用

参加者の個人負担とJICAの負担は下記のとおりです。

| | 個人負担経費 | JICA負担経費 |
|----------------------------|--|---|
| 国内研修 JICA横浜での 研修、報告会 | ・食費 ・パスポート取得にかかる費用 ・予防接種代(必要に応じて) ・その他個人的費用 | ・JICA横浜での宿泊費(宿泊の必要性が認められる場合) ・査証代 ・海外旅行傷害保険加入費 ・自宅最寄駅・バス停からJICA横浜までの往復交通費(経済路線) |
| 海外研修 | ・食費※ ¹ ・宿泊費※ ¹ ・追加保険の加入費用 ・その他個人的費用 | ・往復渡航費※ ² ・自宅最寄駅・バス停から羽田空港もしくは成田空港までの往復交通費(JICA規定による路線) ・羽田もしくは成田空港および海外での空港使用税 ・現地視察に必要な費用(車両備上など) |

※1 現地での食費と宿泊費は合わせて15万円程度(過年度ペルー研修実績より)尚、金額はあくまで目安ですので、変動する可能性があることをあらかじめご了承ください。

※2 海外研修に係る宿泊施設および往復航空便は、安全面等を考慮しJICAで手配決定します。

🔍 海外研修でのプログラム（予定）

| | |
|---|---|
| JICA海外協力隊の活動視察 | 現在活動中の協力隊員から活動の様子を聞き、現地への理解を深める |
| ペルー日系人協会訪問 | 首都リマにある協会にて、日本人移住の歴史や日系人の現状を学ぶ |
| JICAプロジェクトサイト視察 | JICAの実施する技術協力事業等を視察し、国際協力への理解を深める |
| 帰国研修員との意見交換会 | 日系社会研修員として日本で研修経験がある方々と、日本での様子やペルー帰国後の様子、ペルーと日本の違いなど、多様なテーマでのディスカッションを行い、研修テーマについて深める |
| 現地学校訪問 ※現地事情で小中高すべての校種には訪問できない可能性もあります | 私立の日系学校や現地公立学校等を訪問し、施設見学、授業視察、子どもたち、教職員との交流からテーマについて深める |
| 現地JICAスタッフとの意見交換会 | JICAペルー事務所で働く日本人職員や現地スタッフとの対話から、研修テーマについて深める |
| 現地家庭への訪問 | 現地の家庭への訪問を通して交流を深め、ペルーでの日常や暮らしぶり、文化の一部を知る |



先生方との座談会（2025年度ペルー研修）



学校訪問（2025年度ペルー研修）



広大な大地（2025年度ペルー研修）



民芸品の取集（2025年度ペルー研修）



応募資格 次の条件をすべて満たす方

- ① 神奈川県および山梨県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等に勤務する教員（公私問わず）、教育委員会の職員であること。
- ② 授業もしくはクラブ活動等で国際理解教育・開発教育・多文化共生を実践されている方、もしくは、帰国後、本研修の経験を実践に活かせる方。
- ③ 所属校内および地域において、積極的に报告会・勉強会などを開催して国際理解教育・開発教育の推進を行っていただける方（帰国後の校内报告会または研修会の実施は必須）。
- ④ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される事前事後の研修、海外研修および報告会の全日程に参加可能であること。
- ⑤ 所属校の校長の推薦があること。
- ⑥ 海外研修に際し、健康上の支障がない方（既往症や治療中の疾病、傷病がある場合、応募前に主治医と十分協議すること。場合によっては、医師の診断書を提出していただくことがあります）。
- ⑦ 教材づくり等、他の研修参加者と協働して研修に取り組めること。
- ⑧ 今後、JICAが実施する開発教育支援事業に積極的に参加、協力可能なこと。
- ⑨ 過去に、本研修（海外研修）に参加された経験のないこと。



応募方法および応募締切

所定の応募用紙に必要な事項をもれなくご記入の上、JICA横浜開発教育教員向け研修運営事務局宛にメールにて応募書類を添付して送付ください（容量合計は5MB以内としてください）。

応募書類送信先メールアドレス：

jica-yokohama@mediaresearch.co.jp



2026年5月12日（火）23時59分必着

※どうしてもメールでの送付が難しい場合は郵送も受け付けます。

※応募用紙及び写真は返却いたしませんので、予めご了承ください。

※応募用紙はJICA横浜のホームページからダウンロードしてください。

<https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/activities/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



選考方法

本研修の選考は、一次選考（書類審査）および二次選考（面接審査）を通じて行います。

- ① ～5月中旬：一次選考（書類審査）結果通知予定
※応募状況により、通知の時期が前後する場合があります。
- ② 5月下旬：二次選考（オンライン面接）実施予定
※面接日時は当方より指定します。
- ③ 6月上旬：二次選考（面接）結果通知予定
※合否に関する照会は一切お答えできません。



注意事項

- ① 年次休暇・研修（職専免）等研修中のサービスの扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本事業は研修であり、JICAにおける労災保険等の適用はありません。
- ③ 所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の業務上災害に対する補償措置を行ってください。尚、JICAは出張命令依頼書等の発出を行いません。
- ④ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者の妨げになると判断された方、また、定められた活動に参加できない方については、国内研修中、海外研修中を問わず、研修対象者としての資格を失うことがあります。研修中に研修対象者としての資格を失った場合、キャンセル料等（交通費、旅費、保険料等）は、当該者の全額負担となります。特に海外研修中においては、帰路の旅費も当該者の負担となりますのでご了承ください。
- ⑤ 現地の社会状況などの理由により、研修内容の変更、研修日程の延期・中止の場合もございます。



過去の参加者の声

教員としての引き出しを増やしたいと思い参加した。「共生のよさをどうやって伝えられるだろうか？」への自分なりに出した答えを、子どもたちや同僚に発信して校内や地域が安心して共生できる意識をもつきっかけ作りをしたい。（小学校教諭）

自分の考えをアウトプットし、メンバーの考えをシェアしていくタイプの学びができるのがこの研修のよさであった。このようなスタイルの学びの機会が得られたことが一番の収穫である。（小学校教諭）



学校訪問の様子（2025年度パラグアイ研修）

教科書や本の中でしか知りえなかったことが私のなかで現実のものとなり、自分事となった。見る・聞くことだけではなく、直接話を交わす機会がたくさんあり、受け身ではなく「このことが聞きたい」といったように自ら学びに向かえることが特によかった。（中学校教諭）

研修に参加したことで、「自己理解を進めながら、他者を知ることが共生のヒントであるため、生徒たちがお互いに認め合える環境づくりを行いたい」と考えるようになった。（中学校教諭）

年間を通して1つのテーマを多面的・多角的に追究できることが魅力的であった。現地にて肌で感じられることや、様々な校種の参加者と意見交換をして考えを深められるような経験はなかなかできない。（高等学校教諭）



現地でのふりかえり会の様子（同上）

現地で毎日行った「振り返り」では、学んだことを即座に言語化し、メンバー間での意見交換から新たな視点を生み出すという、学びの循環を育むことができた。（高等学校教諭）

お問い合わせ

株式会社メディア総合研究所
JICA横浜開発教育教員向け研修運営事務局

TEL：0120-441-172 FAX：03-6665-8852
E-mail：jica-yokohama@mediaresearch.co.jp
住所：〒107-6032
東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル32階



- ◆ 参加申し込みにおいて入手した個人情報は、JICAが行う開発教育支援事業、研修やセミナーのイベント情報提供、協力依頼等のみに使用いたします。
- ◆ 業務の一部を株式会社メディア総合研究所に委託しています。

